



松下 眞一 *作曲家

1922年10月1日、大阪府茨木市生まれ。旧制第三高等学校（現：京都大学）理科を経て九州大学理学部及び同大学大学院修了。理学博士。

関数解析学・ポテンシャル論の研究者として国際的に知られる。大阪市立大学助教授を経てハンブルク大学客員教授、同理論物理研究所研究員。理論物理学者パスクアル・ヨルダンとヨルダン代数の共同研究を行う。

作曲はほぼ独学であり、幼少時より父・久一より音楽的感化を受ける。

1961年5月、第35回ウィーン世界音楽祭より招待（同ISCM：日本代表）。

1962年4月、ローマ国際作曲コンクール入選。

1965年6月、ザグレブ・ビエンナーレより招待。同年、マドリッド世界音楽祭より招待。

1968年5月、スウェーデン国立放送電子スタジオより招聘。世界初のGaborsystemの共同研究。欧米では、ブレーズ、マタチッチ、ロリオ、サットマリー等により作品が演奏され、また、クセナキス、シュトックハウゼン、ノーノらとも親交を結ぶ。

1970年、EXPO'70日本万国博委員。

途中、1963年12月より1974年まで国際現代音楽祭「大阪の秋」を創立し常任委員を務める。

作曲家としては早くから^{しょうめい}声明や^{わきん}和讃に取り組み、東西本願寺・高田派・佛光寺派等の真宗教団連合結成50周年のためのオラトリオ『親鸞』、^{あごんきょう}阿含経に基づく交響曲『サムガ』、レコード9枚におよぶ法華経カンタータ《佛陀》などが、晩年の代表作として挙げられる。

1990年12月25日歿。

松下眞一は数学者として国際的に名を馳せながら、1965年からはハンブルクを拠点に、ヨーロッパの前衛音楽シーンで目覚ましい活躍を見せた。本公演はご遺族の全面的協力のもと、全編図形楽譜による大作《スペクトラ第5番》（1972）の世界初演、ピアノ奏者と打楽器奏者により一台の楽器を2方向から演奏する二重協奏曲《スペクトラ第3番》（1970、初演以来40年ぶりの再演）を含む、初期から晩年まで書き継がれたピアノ独奏のための《スペクトラ》全曲通奏初演であり、また、作曲家歿後20周年にして初の追悼個展となる。

大井 浩明 *ピアノ Hiroaki OOI, pianist

京都市生まれ、同地に育つ。スイス連邦政府給費留学生ならびに文化庁派遣芸術家在外研修員としてベルン芸術大学（スイス）に留学、ブルーノ・カニーノにピアノと室内楽を師事。同芸大大学院ピアノ科ソリストディプロマ課程修了。また、チェンバロと通奏低音をディルク・ベルナーに師事、同大学院音楽部門コンツェルトディプロマ課程も修了した。アンドラーシュ・シフ、ラーザリ・ベルマン、ロバート・レヴィン（以上ピアノ）、ルイジ・フェルディナンド・タリアヴィーニ（バロック・オルガン）、ミクローシュ・シュパーニ（クラヴィコード）等の講習会を受講。

第30回カウデアムス国際現代音楽演奏コンクール（1996／ロッテルダム）、第1回メシアン国際ピアノコンクール（2000／パリ）に入賞。第3回朝日現代音楽賞（1993）、第11回アリオン賞奨励賞（1994）、第4回青山音楽賞（1995）、第9回村松賞（1996）、第11回出光音楽賞（2001）、第15回日本文化芸術奨励賞（2007）等を受賞。

これまでにNHK交響楽団、新日本フィル、東京都交響楽団、東京シティ・フィル、仙台フィル、京都市交響楽団等のほか、ヨーロッパではバイエルン放送交響楽団、アンサンブル・アンテルコンタンポラン（パリ）、ASKOアンサンブル（アムステルダム）、ドイツ・カンマーオーケストラ（ベルリン）、

ベルン交響楽団等と共演。「ヴェネツィア・ビエンナーレ」「アヴィニョン・フェスティバル」「MUSICA VIVA」「ハノーファー・ビエンナーレ」「パンミュージック・フェスティバル（韓国・ソウル）」「November Music Festival（ベルギー・オランダ）」等の音楽祭に出演。仏TIMPANIレーベルでの『クセナキス管弦楽全集』シリーズには2002年から参加、アルトゥーロ・タマヨ指揮ルクセンブルク・フィルと共演したCD《シナファイ》はベストセラーとなり、ル・モンド・ドゥ・ラ・ミュージック「CHOC」グランプリを受賞した。2004年秋には第2協奏曲《エリフソン》世界初録音が同レーベルからリリースされた。

近年は歴史的鍵盤楽器による古楽演奏にも力を入れ、初期バロック音楽を中心としたチェンバロ・リサイタル、委嘱新作を含むオルガン・リサイタル、《平均律第1巻》《同第2巻》《フーガの技法》全曲によるクラヴィコード・リサイタル、モーツァルト・クラヴィアソナタ全17曲によるフォルテピアノ・リサイタル等を行っている。2006年秋には、日本モーツァルト協会例会にて寺神戸亮指揮レ・ボレアード（古楽器オーケストラ）とフォルテピアノで協奏曲（KV453）を共演すると同時に、グラスハーモニカ作品（KV356/KV617）もオリジナル楽器（Finkenbeiner, 430Hz）

で紹介、その成果により第61回文化庁芸術祭新人賞を受賞した。08年から09年にかけては、ペーター・ヴェン：クラヴィアソナタ全32曲ならびにリスト編交響曲全9曲他を、時代順様式別の9種類のフォルテピアノを弾き分けるシリーズ（全13公演）を開催、NHK-BS等で紹介された他、ライヴ盤はENZO/King Internationalレーベルから順次リリースされており、またiTunes Storeでも公開中である。
<http://ooipiano.exblog.jp/>

宮本 妥子 *打楽器助演（スペクトラ第3番） Yasuko MIYAMOTO, percussionist

静岡県生まれ。同志社女子大学学芸学部音楽学科、ならびに同大学音楽学会「頌啓会」特別専修課程修了。1996年同ライプルク音楽大学大学院、99年同ソリスト科を首席最優秀にて卒業。ドイツ国家演奏家資格を取得。滝厚美、北川皎、上埜孝、中谷満、山口恭範、吉原すみれ、ベルンハルト・ヴルフ、ロバート・ヴァン・サイスの諸氏に師事。

ルクセンブルク国際マリリンバコンクール・ファイナリスト（1995）、第46回ミュンヘンARD国際音楽コンクール・ファイナリスト（1997）、ライプツィヒ現代音楽コンクール第1位（1998）、滋賀県文化奨励賞（1998）等を受賞。

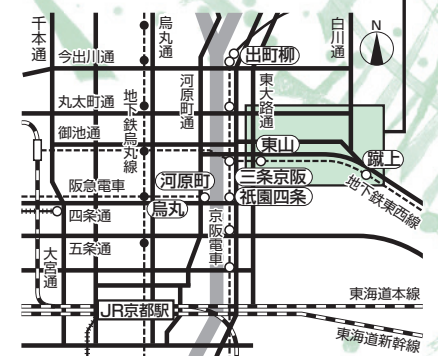
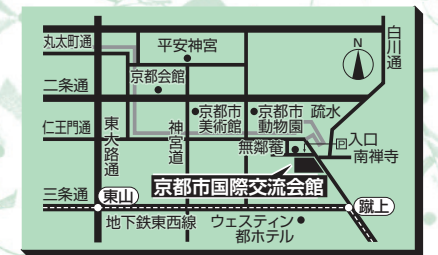
アンサンブル・レ・ドンネ・イデアリー（バーゼル）、アンサンブル・カリス（チューリッヒ）、YMMO即興アンサンブル（フライブルク）に所属。また、アンサンブル・ルシエルシュ（フライブルク）、アンサンブル・スウルプルス（フライブルク）、ムジックファブリック（デュッセルドルフ）、シュトゥットガルト放送交響楽団、バーゼル交響楽団、プレーメン・フィル等に客演。

米国ロチェスターにて招待公演（1997）。宮本妥子の超絶的演奏を想定してミカエル・ジャレルから献呈された、マルチ・パーカッション独奏と管弦楽のための協奏曲《Un long fracas somptueux de rapide céleste...》をベルンハルト・ヴルフ指揮バーゼル交響楽団と世界初演（1998、仏アンリ・ルモワース社から直ちに出版）、翌年に岩城宏之指

揮むわこ祝祭管弦楽団と日本初演も行い（1999）、大きな話題となる。ビエール・ブレーズ率いるアンサンブル・アンテルコンタンポラン・アカデミーのメンバーとして、パリにて演奏（1999）。マリアーノ・エトキンへの委嘱新作初演を含むソロリサイタルをブエノスアイレスで開催、「二度と忘れることができない演奏」（Clarin紙）と絶賛を博す。ハンブルク国際万博・エクアドル館より招待され、オラフ・ジョッペ（ストラスプール打楽器アンサンブル）と共演（2000）。ウクライナ現代音楽祭にソリストとして招かれ、キエフ室内楽団と共演。モンゴルにてモンゴル・フィルハーモニーと打楽器コンツェルトを協演（2002）。オーストリア・フェルドキルヒ音楽祭にて招待演奏（2002、2004）。その他、フリーの打楽器奏者として、欧米各地の多数のフェスティバルに招聘、テレビ、ラジオ、CD録音を行う。

2005年に拠点をドイツから日本に移した後は、スタジオ・フローラ・レーベルよりマリリンバ・ソロのアルバム《Dear》のリリース、財団法人「地域創造」・公共ホール音楽活性化事業アーティストとしてのアウトリーチ公演、京都府民ホールアルティの音楽部門「アルティ合奏団」、びわこミュージックハーベストアカデミーのコーディネーターの他、子供達とのワークショップやダンスとのコラボレーションなど、ますます多彩な活動を展開している。

現在、滋賀県立石山高等学校音楽科、相愛大学非常勤講師。<http://www.yasukomiyamoto/>



地下鉄東西線「蹴上」下車、南禅寺方面へ徒歩5分
○JRの場合：JR「山科」から地下鉄東西線・太秦天神川方面2駅目「蹴上」下車、徒歩5分
○京阪電車の場合：「京阪三条」から地下鉄東西線・六地藏方面2駅目「蹴上」下車、徒歩5分
○近鉄/地下鉄烏丸線の場合：「烏丸御池」から地下鉄東西線・六地藏方面4駅目「蹴上」下車、徒歩5分
○市/バスの場合：5系統「南禅寺永観堂」、東9号系統「蹴上」下車、各徒歩5分
<http://www.kcif.or.jp/jp/access/>